株式会社安川電機との業務提携による 農業分野自動化への取組加速について

全国農業協同組合連合会　　2021年08月18日

ＪＡ全農は、株式会社安川電機（本社：福岡県北九州市、代表取締役社長：小笠原浩、以下「安川電機」）との業務提携契約にもとづき、ロボット技術の応用による農業分野の自動化への取組を加速することを確認しましたのでお知らせします。

全農と安川電機は、全農のメインバンクである農林中央金庫と安川電機のメインバンクであるみずほ銀行の協力を得て、2018年より協業の検討を開始しました。2018年１２月には業務提携契約を締結し、①畜産、②農業生産、③流通販売の３分野において自動化技術の可能性を検討してまいりました。現在、全農が持つ「ゆめファーム全農SAGA」（佐賀県）におけるきゅうりの葉かき作業の自動化などの実証を進めています。また、2021年度からは安川電機グループの技術開発拠点である安川テクノロジーセンタを活用し、いちご選果作業の自動化等、新たなテーマによるスマート農業の具体化も進めています。

業務提携の基本理念は「工業用ロボット技術の国内農業現場への活用推進を行い、農業生産・加工・流通現場における労働力

不足の解消、現場労働の作業軽減と効率性の向上、ならびに消費市場への安全・安心な農畜産物の供給体制の強化に向けた新たな事業モデルを構築」です。
現在、日本の農業は農業就業者の減少や高齢化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外からの人材や、都道府県をまたいだ人の移動が制限され、 労働力不足が深刻な問題となっています。また2030年に向けて国連の定めるＳＤＧｓや農水省が策定した「みどりの食料システム戦略」にある持続可能な社会と農業の実現も求められています。
このような環境下で、前出の基本理念はその重要度を増しており、これまでの取組をさらに加速する必要があることを両者で確認しました。併せてこれまで公表していなかった両者の業務提携とそれに基づく一部取組についても公表することとしました。

安川電機はサーボモーター、インバータ、産業用ロボット等で世界トップのシェアを誇る企業です。全農は世界最高の自動化／最適化の技術力を持つ安川電機とのパートナーシップに大きな可能性を感じています。協業を通じて農業分野の新たな自動化を具現化し、日本農業の発展と日本の食と農の国際競争力強化に貢献します。

参考資料：株式会社 安川電機 関連リリース

■「ゆめファーム全農ＳＡＧＡ」で実証中のきゅうり葉かき実証ロボット

「ゆめファーム全農ＳＡＧＡ」

「きゅうり葉かき実証ロボット」

■「安川テクノロジーセンタ」で開発中のいちご選果ロボット

「安川テクノロジーセンタ」

「いちご選果ロボット」